令和８年度（令和７年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

令和８年９月

新 冠 町 教 育 委 員 会

目　　次

1　はじめに　・・・・・　2
　（１）趣旨
　（２）点検・評価の対象
　（３）点検・評価の方法
　（４）評価

2　教育委員会の会議の開催状況及び付議案件　・・・・・　3

3　規則等の制定　・・・・・　6

4　教育委員会委員の活動状況　・・・・・　7
　（１）令和７年度教育委員の活動の状況
　（２）項目別点検
　　①教育委員会による点検
　　②視察・学校訪問
　　③各種学校行事、会議、研修会等への参加
　　④広報活動
　（３）教育委員会表彰の実施

5　教育予算状況（令和７年度当初予算）　・・・・・　9

6　施策・事業評価総括表　・・・・・　10

7　管理課所管の施策・事業の評価調書　・・・・・　13

8　社会教育課所管の施策・事業の評価調書　・・・・・　28

関係資料　・令和７年度　重点施策概要版　・・・・・　37

1 はじめに

（1）趣旨

平成１９年６月に「地方教育行政の組織および運営に関する法律」が改正され（平成２０年４月１日施行）教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことが義務付けられました。

事務の点検・評価は、教育委員会が事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対し説明を果たすことを目的としています。

（2）点検・評価の対象

令和７年度教育行政執行方針に掲げられた主な施策等を対象としました。

（3）点検・評価の方法

主な施策等に対する具体的な取組内容を、推進目標、目標達成に向けた計画、評価の視点、今後の課題と必要な取組にまとめ評価といたしました。評価は内部評価と、外部評価とし、関係機関から意見や助言をいただきました。

① 推進目標

令和７年度の教育執行方針に基づき、点検、評価の対象となる主な施策の推進目標を示しております。

②目標達成に向けた計画

目標達成に向けた具体的な計画を示しております。

③評価の視点

目標達成に向け実施した事務事業の内容を示しております。

④今後の課題と必要な取組

施策の課題と今後に必要な取組を示しております。

（4）評価

次の４点により評価し、記載しております。

- Ａ　計画どおり又は計画以上の成果が得られた
- Ｂ　概ね目標は達成できた
- Ｃ　課題を残し目標も十分達成できなかった
- Ｄ　検討段階で具体の成果はなかった

2　教育委員会の会議の開催状況及び付議案件

開催回数・期日	付　議　案　件　等
第５回 令和　7年　4月２３日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　令和７年度学級編制及び教職員数について 報告第３号　令和６年度卒業奨学生の進路状況について （同意） 同意第１号　教育長の辞職について （諮問） 諮問第１号　第９次新冠町社会教育中期計画の策定にかかる諮問について （議案） 議案第１号　令和７年度新冠町奨学生の選定及び奨学金の額の決定について
第６回 令和　7年　5月１４日	（同意） 同意第１号　教育長職務代理者について
第７回 令和　7年　5月２８日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　新冠小学校で発生した教員による不適切な指導（体罰の疑い）について 報告第３号　教育委員会事務局職員の人事内示について （議案） 議案第１号　新冠町立日高判官館青年の家設置条例を廃止する条例について 議案第２号　新冠町社会体育施設条例の一部を改正する条例について
第８回 令和　7年　6月２５日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　令和７年第２回新冠町議会定例会に関する諸報告について 報告第３号　令和７年度学校閉庁日の設定について （議案） 議案第１号　新冠町高等学校通学費補助金支給規則の一部を改正する規則について 議案第２号　新冠町立日高判官館青年の家管理運営規則を廃止する規則について 議案第３号　新冠町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 議案第４号　新冠町社会体育施設条例施行規則の一部を改正する規則について 議案第５号　教育財産の用途廃止について
第９回 令和　7年　7月２３日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について

開催回数・期日	付　議　案　件　等
第１０回 令和　7年　8月27日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　７月３０日に発生した津波警報を受けての各教育施設の対応について 報告第３号　令和７年新冠町議会第３回定例会に関する諸報告について （議案） 議案第１号　令和８年度に使用する小学校用及び中学校用教科用図書の採択について 議案第２号　新冠町の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
第１１回 令和　7年　9月24日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　令和７年新冠町議会第３回定例会に関する諸報告について 報告第３号　新冠町の教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について （議案） 議案第１号　令和７年１０月１日付け教職員人事について
第１２回 令和　7年10月22日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　令和８年度学級編制及び教職員数（見込み）について （諮問） 諮問第１号　町立学校のあり方検討に係る諮問について
第１３回 令和　7年11月26日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　令和６年度決算審査の結果について 報告第３号　令和７年新冠町議会第４回定例会に関する諸報告について （議案） 議案第１号　新冠町立認定こども園条例の一部を改正する条例について 議案第２号　令和７年度教育賞及び教育奨励賞表彰の被表彰者の決定について 議案第３号　第９次新冠町社会教育中期計画の策定に係る答申について

開催回数・期日	付　議　案　件　等
第１４回 令和　7年12月24日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　令和７年第４回新冠町議会定例会に関する諸報告について 報告第３号　令和７年１２月８日２３時１５分頃発生した地震に伴う臨時休業について 報告第４号　令和７年１２月１２日１１時４４分頃発生した地震に伴う臨時休業について （議案） 議案第１号　令和８年度特別支援学級に就学を要する児童生徒について 議案第２号　新冠町教育賞及び教育奨励表彰規則運用基準の一部を改正する基準について 議案第３号　令和７年度教育賞及び教育奨励表彰の被表彰者（追加）の決定について
第１回 令和　8年　1月28日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　令和８年度学級編制及び教職員数（見込み）について 報告第３号　令和８年第１回新冠町議会臨時会に関する諸報告について 報告第４号　新冠町奨学生の廃止について （議案） 議案第１号　新冠町立認定こども園条例の一部を改正する条例について
第２回 令和　8年　2月25日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　令和８年新冠町議会第１回定例会に関する諸報告について 報告第３号　令和８年度予算の概要について （議案） 議案第１号　いじめ重大事態調査会設置要綱の制定について 議案第２号　令和８年度教育行政執行方針について
第３回 令和　8年　3月　2日	（議案） 議案第１号　令和８年度当初の教職員人事について

開催回数・期日	付　議　案　件　等
第４回 令和　8年　3月２４日	（報告） 報告第１号　一般事務報告について 報告第２号　町立学校の適正規模、適正配置及び施設整備に係る答申について 報告第３号　令和８年第１回新冠町議会定例会に関する諸報告について 報告第４号　令和８年度におけるレ・コード館の開館日について 報告第５号　教育委員会事務局職員の人事内示について （議案） 議案第１号　新冠町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 議案第２号　新冠町教育委員会に対する事務委任規則の一部を改正する規則について 議案第３号　新冠町立認定こども園管理規則及び新冠町立認定こども園の組織に関する規則を廃止する規則について 議案第４号　第９次新冠町社会教育中期計画について

３　規則等の制定

規則等の制定	・新冠町高等学校通学費補助金支給規則の一部を改正する規則 ・新冠町立日高判官館青年の家管理運営規則を廃止する規則 ・新冠町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 ・新冠町社会体育施設条例施行規則の一部を改正する規則 ・新冠町教育賞及び教育奨励表彰規則運用基準の一部を改正する基準 ・いじめ重大事態調査会設置要綱の制定 ・新冠町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 ・新冠町教育委員会に対する事務委任規則の一部を改正する規則 ・新冠町立認定こども園管理規則及び新冠町立認定こども園の組織に関する規則を廃止する規則

4 教育委員会委員の活動状況

（１）令和７年度教育委員の活動の状況　※教育長を除く

期　日	活　動　内　容
4月　3日(木)	教職員辞令交付式
4月　8日(火)	新冠小学校、新冠中学校入学式
4月２３日(水)	第５回教育委員会
4月２４日(木)	日高管内教育委員会連絡協議会総会（ZOOM）
5月１４日(水)	第６回教育委員会
5月２３日(金)	新冠中学校体育祭
5月２８日(水)	第７回教育委員会
6月１４日(土)	新冠小学校大運動会
6月２５日(水)	第８回教育委員会
6月２８日(土)	認定こども園ド・レ・ミ　運動会
7月　9日(水)	新冠小学校ふるさと給食会
7月１７日(木)	北海道市町村教育委員会研修会
7月２３日(水)	第９回教育委員会
8月２６日(火)	新冠中学校ふるさと学習発表会
8月２７日(水)	第１０回教育委員会
8月２７日(水)	第１回総合教育会議
8月２７日(水)	新冠町少年国内研修交流事業　参加者選考面接
8月２９日(金)	新冠中学校吹奏楽部全道大会視察
9月　3日(水)	第１回教育委員学校訪問　各学校、ド・レ・ミ
9月１２日(金)	新冠中学校学校祭
9月２４日(水)	第１１回教育委員会
１０月２２日(水)	第１２回教育委員会
１０月２４日(金)	新冠小学校学習発表会
１０月３１日(金)	はやきたスタディフェスティバル
１１月　3日(月)	新冠町功労賞・善行賞贈呈式
１１月１５日(土)	認定こども園ド・レ・ミ　お遊戯会
１１月２６日(水)	第１３回教育委員会
１１月２８日(金)	新冠小学校公開研究会
１２月２２日(月)	森みつ少年少女文芸賞二次審査
１２月２４日(水)	農水新冠賞審査
１２月２４日(水)	第１４回教育委員会
1月１１日(日)	教育賞・教育奨励賞・二十歳を祝う式典
1月１５日(木)	農水新冠賞・森みつ少年少女文芸賞授与式（新冠小学校、ド・レ・ミ）
1月２８日(水)	第１回教育委員会
2月　6日(金)	第２回教育委員学校訪問　各学校、ド・レ・ミ

期　日	活　　動　　内　　容
2月12日(木)	日高管内教育委員会教育長・教育委員研修会（ZOOM）
2月20日(金)	新冠町少年国内研修交流受入事業　歓迎交流会
2月25日(水)	第２回教育委員会
3月　2日(月)	第３回教育委員会
3月13日(金)	新冠中学校卒業式
3月17日(火)	新冠町少年国内研修交流事業報告会
3月19日(木)	新冠小学校卒業式
3月24日(火)	認定こども園ド･レ･ミ卒園式
3月24日(火)	第４回教育委員会
3月24日(火)	第２回総合教育会議

（２）項目別点検

①教育委員会による点検

教育委員会会議については、原則毎月１回として開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会があり、保育・教育に関する様々な案件について検討し議決しております。

②視察・学校訪問

新冠町教育委員会では、年間２回の学校訪問を行い、学校経営及び経営の進捗状況について、普段の児童生徒の学習の様子を視察するとともに、学校及び認定こども園の設備等の状況について視察訪問しております。

③各種学校行事、会議、研修会等への参加

町内の小中学校及び認定こども園ド・レ・ミの入学式、卒業式に加え、各種行事に各委員と教育長が出席しております。

また、各種会議や研修会に参加するとともに、定例会終了後に懇談を持ち、委員の資質向上に向けた取り組みを実施しております。

④広報活動

各学校のホームページにおいて学校教育に係る諸事業を広報するとともに、全国学力学習状況調査の結果及び体力運動能力調査結果については町広報に掲載し、広く町民へ周知しております。

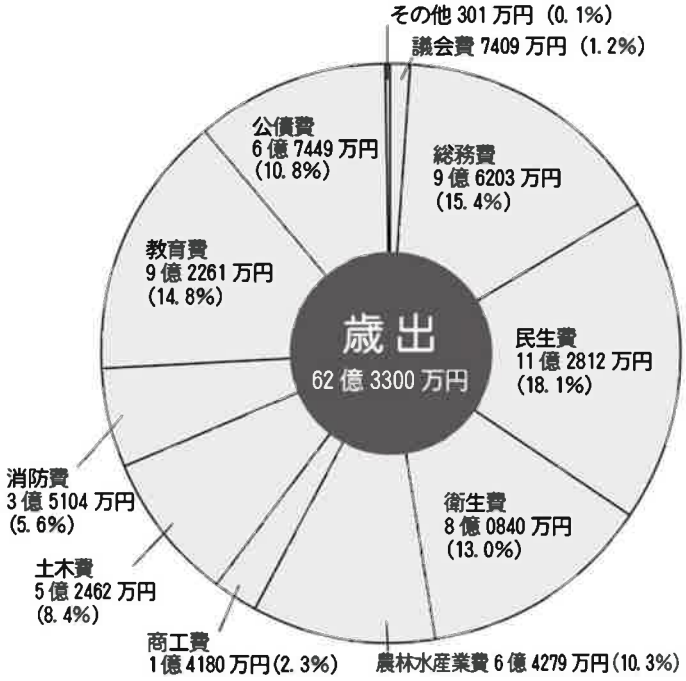
（３）教育委員会表彰の実施

新冠町の教育・文化、スポーツ活動の振興発展に尽力し、その功績顕著な個人または、団体を表彰し、本町教育の振興発展を図る目的により、その栄誉を讃えております。

【令和７年度の受賞者】

・新冠町教育賞　　スポーツ賞　　１名
　　芸術文化賞　　２名
・教育奨励賞　　スポーツ奨励賞　６名、５団体
　　芸術文化奨励賞　１名、１団体

5　教育予算状況(令和7年度当初予算)



○予算(歳出)概要　　(単位　千円)

款	項	金　額
3　民生費	2　児童福祉施設費	
(子育て支援センター・児童館費分)		22,896
9　教育費		922,614
	1　教育総務費	184,087
	2　小学校費	74,883
	3　中学校費	58,730
	4　認定こども園費	255,522
	5　社会教育費	231,082
	6　保健体育費	53,156
	7　学校給食費	65,154
教育関係予算計		945,510

6 施策・事業評価総括表

令和7年度管理課所管の施策・事業の評価一覧

A 評価どおり又は計画以上の成果が得られた B 概ね目標は達成できた C 課題を残し目標も十分達成できなかった D 検討段階で具体の成果はなかった

「子どもたちを中心としたウェルビーイングのさらなる充実と学校教育の活性化」

取組むべき主な施策		推進目標		ページ	内部評価	外部評価
1	一人一人のウェルビーイングの向上と日々の積み上げによる学力向上	1	○ 主体的・対話的で深い学びへの授業改革、質の高い学び ○ 学力の向上 ○ 小中を貫く学びの創造 ○ 小中の校内研修の充実、小中合同研修の実施 ○ 生徒指導の三機能が活かされた学級経営、教科経営 ○ 授業改善に向けた、教師一人一人の改善目標の明確化	14	B	B
		2	○ 望ましい学習環境、生活習慣の確立	15	B	B
2	豊かな心と健やかな体の育成	1	○ 道徳教育の充実 ○ いじめ、不登校へのきめ細かな対応 ○ 健康安全教育の充実	16	B	B
		2	○ 読書活動の推進 ○ 体力向上策の推進	17	B	A
3	特色ある教育活動の推進	1	○ 総合的な学習の時間 ○ 中学校社会科の授業を中心とした主権者教育の充実 ○ 郷土資料館と連携したふるさと教育の推進 ○ 発達段階に応じたキャリア教育の推進 ○ 新聞等の情報を活用した教育活動の推進	18	A	A
		2	○ 先を見据えた幼小中連携の推進 ○ 地域の教育力を活用した活動の推進	19	A	A
4	特別支援教育の充実	1	○ インクルーシブ教育の充実と専門性の向上及び校内研修の時間確保 ○ 通級教室、交流及び共同学習の充実 ○ 個別の指導計画・教育支援計画(短期・長期)に基づく切れ目のない支援体制の確立 ○ 特性に応じた適切な教育課程の編成・実施・評価・改善 ○ 関係機関との情報共有によるきめ細かい教育相談と支援体制の充実 ○ 就学・進学時の学校間引継ぎの円滑化と指導・支援体制の充実 ○ 通級指導教室巡回指導教員、スクールカウンセラーの活用 ○ 特別支援教育に携わる教員の計画的な校内人事配置	20	B	A
5	信頼される学校づくりの推進	1	○ 校長を中心とした校内組織の強化 ○ 初任段階教員及び中堅教員等の人材育成 ○ 幼小中を貫く教育の推進 ○ 教職員の資質向上と服務規律の保持 ○ メンタルヘルスチェックの実施と個別面談	21	A	A
6	教育環境の整備	1	○ 小・中学校の老朽化と新たな学校の創造 ○ 教師にとってのウェルビーイング ○ 町費教職員の活用による教育体制の充実 ○ 年間授業時数(1015時間)の確保と月1回の完全下校日の学校設定	22	A	A
		2	○ 静内農業高等学校への通学支援の推進 ○ 義務教育施設の長寿命化計画基づく推進と次期構想への着手	23	A	A

取組むべき主な施策		推　進　目　標		ページ	内部評価	外部評価
7	認定こども園の教育・保育の推進	1	○ 接続を意識した幼児教育の充実	24	A	A
		2	○ 保育教諭研修での学びと実践	25	A	B
		3	○ 適切な保育教諭の配置と教育保育環境の整備	26	A	A
		4	○ こども誰でも通園制度の準備 ○ 子育て支援事業の充実	27	B	B

令和7年度社会教育課所管の施策・事業の評価一覧

A 評価どおり又は計画以上の成果が得られた　B 概ね目標は達成できた　C 課題を残し目標も十分達成できなかった　D 検討段階で具体の成果はなかった

「ふるさとを愛し、生涯にわたり、学びあい、教えあう学習社会」

取組むべき主な施策		推進目標		ページ	内部評価	外部評価
1	レ・コード館を中心とした生涯学習社会の推進	1	○ 施設機能を活かした助け合いの醸成 ○ 音楽関連団体の推進と関連団体との連携 ○ レ・コードと音楽による町づくりの熟成	29	A	A
2	生涯にわたってスポーツに親しむ社会体育の推進	1	○ スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのある暮らし ○ 子どもの心身の健全な発達と体力向上のためのスポーツ機会の充実 ○ スポーツに親しむ環境の充実 ○ スポーツ観戦・応援の機運の醸成 ○ スポーツでつくる優しい共生社会 ○ スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり	30	A	A
3	郷土愛を育む郷土資料館事業の推進	1	○ 文化財の保護と活用 ○ 地域研究の推進 ○ 施設環境の整備	32	A	A
4	豊かな感受性と社会性を育む図書プラザ事業の推進	1	○ 読書活動の推進 ○ 読書環境の整備	33	A	A
5	豊かな人間性と自律を促す青少年教育事業の充実	1	○ 命の大切さを学ぶ体験活動の促進 ○ 子どもの安全・安心な環境づくりの推進 ○ 地域ぐるみで子どもを育む環境の整備 ○ 青年教育団体活動の支援	34	A	A
6	協働型参画社会を目指した成人教育の推進	1	○ 地域の教育力を高める講演、講座等の推進 ○ 仲間づくりと生きがいづくりを目指した高齢者教育の充実 ○ 男女平等等参画社会を目指した活動の推進	36	A	A

7　管理課所管の施策・事業評価調書

《基本目標》

「知・徳・体」の調和と、たくましく生きる力の育成

【最重点目標】

○未来を見据え、持続可能な社会の形成者としての礎を築く

○子どもを中心としたウェルビーイングの向上

○新冠ならではの幼・少・中を貫く教育計画、教育実践、連続性の充実

「子どもたちを中心としたウェルビーイングのさらなる充実と学校教育の活性化」

（１）一人一人のウェルビーイングの向上と日々の積み上げによる学力向上

推進目標①	○主体的・対話的で深い学びへの授業改革、質の高い学び ○学力の向上 ○小中を貫く学びの創造 ○小中の校内研修の充実、小中合同研修の実施 ○生徒指導の三機能が活かされた学級経営、教科経営 ○授業改善に向けた、教師一人一人の改善目標の明確化		
目標達成に向けた計画	・育成すべき資質・能力「新冠パワーズ」を位置づけた教育課程や指導計画の編成・実施・評価・改善　校内研修の充実 ・指導と評価の一本化に向けた授業づくり ・全国学力・学習状況調査等の分析と指導改善 ・小中連携推進会議を中心とした教育課程の交流、小中一貫の学びの連続性を確立 ・生徒指導提要の改変に則った生徒指導の在り方の確立、生徒指導三機能の共通理解のための校内研修の実施 ・人事評価シートに基づく面談・自己診断シート等を活用した改善目標の明確化		
評価の視点	・各学校の教育課程編成に係るヒアリング及び教育委員学校訪問による学校経営における進捗状況把握 ・カリキュラムマネジメントの実践に基づく授業改善		
内部評価	B	外部評価	B
内部評価の内容	・育成すべき資質・能力「冠小パワーズ」を基盤とした授業改善を推進し、見通しと振り返りを大切にした単元構成や言語活動の充実が図られた。主体的・対話的に学ぶ姿が多くの学級で見られるようになった。また、学力向上プランに基づく検証と改善を重ねることで、基礎的・基本的な学力の定着に一定の成果が見られた。 ・生徒指導案件から対応までの手順を、校内で起きた実際の事案をもとにチャート化し、手順を再確認した。それにより、円滑な情報共有がさらに進んだ。 ・「指導と評価の一体化」を意識し、校内研究授業等に積極的に取組み、授業改善を実践した。 ・小中合同研修等を通して小中の教育課程の接続や生徒用ＰＣ新機種の活用方法を研修することができた。		
外部評価の内容	・小学校、中学校の９年間で子どもたちの心と体が成長していくような教育を望む。		
今後の課題と必要な取組み	・授業改善の成果を一層可視化するため、学力調査やアンケート等のデータを活用した検証をさらに進め、個別最適な学びと協働的な学びのバランスを意識した授業改善を継続する。 ・小中を貫く教育課程編成に向けて、小中合同研修の回数と内容をより充実させる。		

推進目標②	○望ましい学習環境、生活習慣の確立		
目標達成に向けた計画	・学校と家庭が協働した「家庭（自立）学習の手引き」の活用⇒懇談会・個人面談等での啓発 ・小中連携に基づく自立学習強化週間の設定 ・メディアコントロールの啓蒙 ・家庭学習の質の向上やｅラーニングの活用を保護者懇談や各種お便りにて啓発		
評価の視点	・ＩＣＴ機器を活用した、分かる授業づくりの実践 ・学習規律、家庭学習手引きの配布及び家庭と連携した工夫と活用 ・社会教育事業を活用した学習時間の確保と家庭学習の定着		
内部評価	B	外部評価	B
内部評価の内容	・家庭環境や個々の実態による差が見られることから、引き続き学校と家庭が連携した支援を行う。 ・家庭学習の質の向上に向け、家庭学習習慣の実施や放課後学習・テスト前学習会を実施できた。		
外部評価の内容	・ゲームや動画への依存が強くならないように家庭と学校、行政が一体となった取組みを望む。 ・各家庭の実態、個々人により大きな隔たりが見られると推察する。		
今後の課題と必要な取組み	・タブレットＰＣの新機種導入に伴い、授業及び家庭学習における効果的なＩＣＴの活用について、さらに取組んでいく。 ・家庭環境や個々の実態による差が見られることから、引き続き学校と家庭が連携した支援を行う。		

（２）豊かな心と健やかな体の育成

推進目標①	○道徳教育の充実 ○いじめ、不登校へのきめ細かな対応 ○健康安全教育の充実		
目標達成に向けた計画	・道徳推進教師を中心とした「考え、議論する道徳」の情報提供と評価や授業交流を通した授業改善の推進　外部人事の活用 ・いじめアンケートや「ほっと」を活用した児童理解の推進と受容的学級作りを土台とした児童実態交流の推進 ・生徒指導部を中心としたネットモラル学習の推進 ・いじめ防止・不登校対策委員会を軸とした組織的な対応と適応指導教室の設置に向けた動き　関係機関との連携、家庭との信頼づくり ・防災、暑さ・熱中症対策等における危機管理マニュアルに則した確実な実施		
評価の視点	・道徳授業の研修と管理職による授業参観による授業改善の推進 ・いじめアンケート実施結果を分析するなどの校内における早期対応と、町部局と連携した、問題行動、不登校の対応と取組みの実践及び、保護者を含めたネットモラル教育の継続実施 ・町部局と連携した防災教育の実施		
内部評価	B	外部評価	B
内部評価の内容	・道徳推進教師を中心に、内容項目に合わせてローテーションで授業をし、充実させた。 ・生徒指導事項や不登校生徒状況について、朝の打合せで情報共有・いじめ防止対策委員会を適宜開催・適応指導教室等の別室登校で、共通認識で組織的に取組むことができた。 ・地震・津波を受け、危機管理マニュアルを見直し、事故防止に努めた。		
外部評価の内容	・人の心を傷つける言葉を平気で発する者も見られるが、学校、教員の皆さん、それを取り巻く方々、教育委員会や社会教育の方々が地域の子どもたちの成長を見守っているのが良い点と感じている。 ・いじめ対応と不登校の子どもへの対応を引き続きしっかりやってほしい。		
今後の課題と必要な取組み	・いじめや不登校の未然防止と早期対応をより一層充実させるため、組織的な情報共有と関係機関との連携を一層強化する。 ・不登校生徒対策として、コーディネーター中心とした校内支援委員会の活用、スクールカウンセラー・発達支援センター・外部機関との連携を深め、きめ細やかな指導を推進していく。 ・予防的生徒指導の観点から、初期の段階で問題解決を図り、いじめ見逃しゼロに向けて学校組織として取組んでいく。		

推進目標 ②	○読書活動の推進 ○体力向上策の推進		
目標達成に向けた計画	・図書プラザや図書ボランティアと連携した読書活動、朝読書の充実 ・１校１実践（持久走、なわとび）の充実と体育エキスパート教員からの情報発信による指導技術の向上 ・新体力テストの実施・把握・分析による体力増進のための取組みの推奨と怪我防止の取組み		
評価の視点	・朝読書の推進と協力機関との連携による計画的な読書活動の推進 ・体力運動能力調査の結果分析と授業改善		
内部評価	B	外部評価	A
内部評価の内容	・読書活動の充実を通して、他者を思いやる心や豊かな感性を育む取組みが定着した。 ・体育エキスパート教員を中心とした体力向上の取組みにより、運動に親しむ意欲の向上が見られた。 ・体育推進教師が中心となり、体力向上に向けた授業工夫する取組みを進めた。		
外部評価の内容	・読み聞かせ活動を通じ、本好きの子が多く嬉しく思っている。 ・よく体を動かす子ども多く、体育科専門の教員の工夫の成果と思われる。		
今後の課題と必要な取組み	・体力向上については、一人一人の実態に応じた継続的な取組みを進めていく。		

（3）特色ある教育活動の推進

推進目標①	○総合的な学習の時間 ○中学校社会科の授業を中心とした主権者教育の充実 ○郷土資料館と連携したふるさと教育の推進 ○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ○新聞等の情報を活用した教育活動の推進		
目標達成に向けた計画	・郷土を愛する心を育てる総合的な学習の時間の推進と充実・関連機関との連携 ・「ふるさと学習」にて町づくりおける探求的な学習活動と町長への提案型学習の実施 ・町づくりおける探求的な学習を行うとともに、選挙人年齢の引き下げに伴う主権者教育の実施 ・郷土の歴史遺産や伝統文化の次世代への継承 ・町民や団体等との連携 ・継続的なキャリアノート（全校で統一）の活用とキャリア教育の視点による学級経営 ・ＮＩＥとも連携しながら、教科内で新聞記事を活用した授業展開の推進		
評価の視点	・キャリアノートの活用と地域の人材・資源を活用したキャリア教育の推進 ・町づくりへの生徒からの質問や提案に答える町長との懇談会の実施 ・各教科及び特別活動での新聞活用		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・総合的な学習の時間では、地域や外部人材を積極的に活用したふるさと教育を推進し、児童が地域への関心や愛着を高める姿が見られた。 ・キャリアノートを活用することで、自らの成長や学びを振り返り、将来への見通しをもって主体的に学習に取組む姿が見られるようになった。 ・地元の郷土愛を育てる「ふるさと学習」が３年目を迎えて軌道に乗り、役場と連携し未来の新冠像を生徒が提案する意義ある取組みとなった。また、修学旅行先で新冠のＰＲ活動をすることで、ふるさとの良さを再発見することができた。		
外部評価の内容	・地域の人材、資源の活用を引き続き盛り上げていってほしい。 ・“ふるさと新冠”を好きだと感じられるような教科（総合学習）への取組みの工夫が見られる。		
今後の課題と必要な取組み	・「ふるさと学習」を地域発展に実効性のあるものとして、さらに深めていくとともに、持続可能な教育活動にしていく。 ・ＮＩＥを取り入れた言語活動の一層の充実を図る。		

推進目標②	○先を見据えた幼小中連携の推進 ○地域の教育力を活用した活動の推進		
目標達成に向けた計画	・外国語・特別支援・各教科等で幼小中連携の充実（乗り入れ授業交流） 教研協各部会　小中合同研修の推進 ・会議等を活用した協働的・計画的な連携の推進 ・綿密な情報交流と共通理解 ・理論と実践の往還に基づく校内研修の推進 ・管内規模の公開研究会の実施 ・「地域とともにある学校」を目指した地域の教育力を活用した取組み		
評価の視点	・小中間の縦の接続を意識した教育活動の実践 ・学校運営への参画と支援・協力の促進		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・幼小中連携については、新入生説明会時における小学生の授業・部活動体験で連携しながら、充実した取組みを生徒に体験させることができた。 ・中学校　１年生～オシゴトーク、２年生～職場体験、３年生～高校体験とキャリア教育を３年系統立てた取組みとすることができた。		
外部評価の内容	・幼少中連携に取組み始めるスピードが速く、感心している。 ・今後も地域の教育力を高めるために連携を推進していってほしい。		
今後の課題と必要な取組み	・幼小中連携については、小中１校ずつになり、さらに綿密に連携をとり、新たな学校の創造に向けた取組みを検討していく。 ・学校運営協議会において、地域で子どもたちを育てる意識を醸成できるよう、「学校支援活動」を視点とした取組みを進めていく。 ・地域人材や関係機関との連携をさらに広げ、学びの質の向上につなげていく。		

（4）特別支援教育の充実

推進目標	○インクルーシブ教育の充実と専門性の向上及び校内研修の時間確保 ○通級教室、交流及び共同学習の充実 ○個別の指導計画・教育支援計画（短期・長期）に基づく切れ目のない支援体制の確立 ○特性に応じた適切な教育課程の編成・実施・評価・改善 ○関係機関との情報共有によるきめ細かい教育相談と支援体制の充実 ○就学・進学時の学校間引継ぎの円滑化と指導・支援体制の充実 ○通級指導教室巡回指導教員、スクールカウンセラーの活用 ○特別支援教育に携わる教員の計画的な校内人事配置		
目標達成に向けた計画	・特別支援教育・インクルーシブ教育についての専門性を高めるための研修の位置づけ ・コーディネーターを中心とした、巡回通級の調整と交流・協働学習の推進と確実な支援 ・一年間を見通した指導計画、支援計画の定期的評価と改善、保護者への説明の実施 ・教員の適性に基づく人事配置 ・積極的な特別支援教諭免許の認定講習受講への働きかけ関係機関との定期的な連携の推進と強化		
評価の視点	・指導計画、支援計画の教職員への共有化 ・町子ども発達支援センター等関係機関との連携及び情報交流体制の充実 ・校内支援委員会の定期的な開催及び研修の実施		
内部評価	B	外部評価	A
内部評価の内容	・校内委員会やコーディネーターを中心に、個別の指導計画・教育支援計画に基づいた支援体制を整え、児童一人一人の実態に応じた支援を行うことができた。 ・巡回通級指導教員やスクールカウンセラーとの連携を通して、支援の充実と教職員の専門性向上が図られた。 ・スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリングに関する研修の実施や、校内支援委員会をコーディネーターが核となり実施することにより職員全体で生徒に関わるという意識の醸成が図られた。		
外部評価の内容	・支援を必要とする児童の保護者が気兼ねなく支援を受けられる体制づくりを継続する必要がある。 ・一人ひとりに応じた支援は難しいが、新冠町は他町よりも手厚い支援が受けられているように感じる。 ・これからも一人ひとり丁寧に対応してほしい。 ・支援員を増員してもいいと思う。		
今後の課題と必要な取組み	・スクールカウンセラーと密に連携した取組みやコーディネーターを核とした取組みが継続的に行われるように、さらに相談機能を充実させていく。 ・特別支援教育における個に応じた適切な指導と必要な支援を行うための教員の資質能力向上、意識改革、スキル向上の研修を継続する。 ・今後、巡回通級指導へ通う児童が増えることが予想されるため、その対応に向け整備を進める。		

（５）信頼される学校づくりの推進

推進目標①	○校長を中心とした校内組織の強化 ○初任段階教員及び中堅教員等の人材育成 ○幼小中を貫く教育の推進 ○教職員の資質向上と服務規律の保持 ○メンタルヘルスチェックの実施と個別面談		
目標達成に向けた計画	・学校重点目標改善推進計画を柱とした経営参画意識の醸成と検証改善サイクルの一層の推進 ・メンターチームによる意図的、計画的な初任者段階研修の推進 ・参観日等の授業公開を活かした校種間交流 ・ミドルリーダーへの意識化と若手職員への適切な指導 ・メンタルヘルスチェックの結果を基に面談を実施し働き方改革とリンクした職場環境づくりの醸成		
評価の視点	・各学校の学校経営に係るヒアリングの実施 ・ＩＣＴ推進委員会や研究指定校など学校の主体的な調査研究への支援 ・指導主事及びミドルリーダーを活用した職員の育成 ・幼小中連携推進委員会、ＩＣＴ教育、外国語等、新学習指導要領の対応と接続を意識した各種委員会の推進		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・校長を中心とした校内組織のもと、学校経営ビジョンや重点目標の共有を図り、教職員一人一人が学校経営に参画する意識の醸成に努めた。 ・若手教員の授業力や指導力の向上が見られた。また、学校からの情報を多く発信することで、保護者や地域との信頼関係の構築を図ることができた。 ・分掌部会の定例化、ミドルリーダーへのＯＪＴ通を通し、学校組織の確立化に向けて動き始めることができた。 ・職員会議の資料として事例研修を行うことで、コンプライアンスの啓発に努めた。		
外部評価の内容	・保護者への対応は大変ですが、先生方がしっかり情報を伝え、コミュニケーションをとって、親御さんに信頼される努力が見られる。		
今後の課題と必要な取組み	・教職員の資質向上と服務規律の保持を両立させながら、学校全体で学び続ける組織づくりを進め、地域から信頼される学校運営を継続していく。 ・若手教員の授業力・生徒指導力の向上に向けたベテラン教員がアドバイスできるように継続して取組んでいく。 ・ミドルリーダー層の資質・能力の向上に向けて、ＯＪＴによる更なる指導が必要である。 ・研修会等への参加促進を引き続き行うことで、教員としての資質・能力の向上に努める。		

（６）教育環境の整備

推進目標①	○小・中学校の老朽化と新たな学校の創造 ○教師にとってのウェルビーイング ○町費教職員の活用による教育体制の充実 ○年間授業時数（1015 時間）の確保と月１回の完全下校日の学校設定		
目標達成に向けた計画	・新しいかたちの学校運営協議会運営 ・地域の声を反映させた新たな学校の創造に向けた展望 ・教職員の身体的・精神的・社会的に良好な状態を維持するための日常的な関わり ・ワークライフバランスを保つための心理的安全性の確立と働き方改革の推進 ・勤務時間の把握と対応及び定時退勤日等の徹底 ・校務支援システムの活用 ・町費職員の活用による支援充実と教職員の業務改善意識の醸成 ・毎月の確実な授業時数と教科指導進度の確認と調整、報告 ・完全下校日の設定		
評価の視点	・学校運営協議会の組織改編 ・定期退勤日の設定と業務改善の意識化 ・働き方改革意識の醸成		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・小中それぞれの運営協議会を町コミュニティスクールとの一本化により、小中の連携をより深めることにつながった。 ・支援員による学習補助体制を日常の授業以外にも活用し、学力向上に取組むことができた。 ・働き方改革の最終年度を終え、一定程度の結果と成果を出すことができた。（中学校） ・完全下校日の設定や勤務時間の把握を通して、時間を意識した働き方が校内に定着しつつある。 ・教育体制の充実や学習環境の整備により、児童が安心して学べる環境づくりを進めることができた。		
外部評価の内容	・学習支援員による補助体制が充実している。 ・一斉下校の曜日設定も効果的であると考える。 ・教職員の負担はまだ大きいと考えられるのでみんなにとってウェルビーイングな学校に迎える体制を望む。 ・部活動の地域移行において家庭（親）の負担が大きくならないように進めてほしい。		
今後の課題と必要な取組み	・町職員による支援体制を課業日以外の業務の検討をしていく。 ・部活動地域展開に向けて、町の協議会と連携して取組んでいく。 ・校務ＤＸをさらに推進し、教職員が児童と向き合う時間を安定的に確保できる体制づくりを進めていく。		

推進目標②	○静内農業高等学校への通学支援の推進 ○義務教育施設の長寿命化計画基づく推進と次期構想への着手		
目標達成に向けた計画	・新ひだか町へバス通学する高校生への経費の負担軽減 ・義務教育施設の長寿命化計画の推進 ・町内小中学校の将来構想		
評価の視点	・新ひだか町の高等学校へバス通学する高校生の通学費助成制度の継続 ・新冠町教育施設個別施設計画の推進 ・町立学校再編改築整備方針の検討		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・静内農業高等学校への通学バスを新ひだか町と共同運行を継続。 ・新冠静内間のバス運賃値上げに対応し、定期券購入代金に対する定額補助を２分の１の定率補助に拡充した。 ・町立学校あり方検討委員会に町立学校の施設整備のあり方等について諮問及び答申を受け、方針を決定した。		
外部評価の内容	・補助の継続を希望する。		
今後の課題と必要な取組み	・静内農業高等学校、静内高等学校の２校は地元地域の高校という位置づけで、通学補助について継続する。 ・学校改築にかかる整備方針に基づき、開設年度に向け各種検討事項に着手していく。		

（7）認定こども園の教育・保育の推進

推進目標①	○接続を意識した幼児教育の充実		
目標達成に向けた計画	・スタートカリキュラムの実践 ・小学校、中学校との連携 ・要支援児童の把握と早期対応		
評価の視点	・年齢に合わせた年間計画の作成・整備 ・年齢に合わせた体力作り、音楽事業等への取組み ・各小学校との連携事業への参加 ・支援が必要な家庭に係る関係機関との情報の共有と連携及び、北海道の事業を活用した園児に対する指導方法の確認		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・一人ひとりの主体性を重んじながら、信頼関係を築き、集団生活の中で社会性を育む取組みが図られた。 ・幼小中連携推進会議等において情報共有や調整を行い、小学校への引き継ぎが円滑に行われた。 ・町保健師・発達支援センター等と随時情報交換や研修を受けることで、職員の専門性が向上するとともに、援助・指導方法の検証による改善が図られた。		
外部評価の内容	・幼少中の連携を今後もお願いしたい。 ・コドモン利用開始から園活動の報告が充実され、園だよりでは各クラスの活動も把握できるようになっている。 ・体操教室の対象を年長、年中だけでなく、年齢に合わせた内容での実施を望む。		
今後の課題と必要な取組み	・小学校への接続を意識した具体的な育成目標の設定 ・幼小中連携推進会議を活用した継続的な連携の推進 ・関係機関との連携・支援の推進・継続 ・保護者への情報提供と丁寧な説明の実施		

推進目標②	○保育教諭研修での学びと実践		
目標達成に向けた計画	・計画的な研修派遣 ・園内・園外研修の実施 ・関係機関との連携		
評価の視点	・幼児教育に係る概論、教育・保育実技の指導に関する研修への参加及び、教育保育に係る課題や問題を設定した園内研修の実施 ・幼小中連携推進会議やパートナーティーチャー、専門機関からの助言		
内部評価	A	外部評価	B
内部評価の内容	・保育教諭個々の指導力向上を図るため、研修計画を作成し実施した。また、関係機関との連携やオンライン研修を積極的に活用し、研修機会の確保を図った。		
外部評価の内容	・毎年、同じ講師、同じようなことを実施するのではなく、アップデートしてほしい。 ・他の保育施設との情報交換なども必要。 ・ケガなどの事案の対処方法など改善を希望する。 ・子どもたちもド・レ・ミが楽しい、行きたいと毎日言っている。今後も子どもたちのために頑張ってください。		
今後の課題と必要な取組み	・継続的・計画的な研修機会の確保と充実 ・保育教諭の研修意欲向上の動機付けの取組み		

推進目標③	○適切な保育教諭の配置と教育保育環境の整備		
目標達成に向けた計画	・入園希望者増加への対応 ・施設環境の整備		
評価の視点	・入園児増加への対応と待機児童解消に向けた施設運営の工夫 ・危機管理体制の整備 ・園内外施設点検、遊具点検の計画的実施		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・必要に応じて保育職員を加配することにより、受入れしやすい環境と教育・保育の質の向上並びに安全体制の確保が図られた。 ・危機管理マニュアルを作成し、事故・災害に備えている。 ・定期的な避難訓練・毎日の施設内外点検を継続して実施した。 津波警報発令時に職員、園児の避難が円滑に行われた。 ・保育職員の採用予定人員数を確保できず、慢性的な職員不足が生じていたが、保育体制に影響がでないような勤務体制を組み対応した。		
外部評価の内容	・園児の減少と保育教諭の確保は難しいと考えるが、引き続き保育に支障が出ないよう配置、管理、工夫を希望する。 ・いつ、どこでも地震などの災害が起こりうるので避難訓練など日々の準備が大切である。 ・定期的な避難訓練の実施で安心できる。昨年７月の津波警報発令時の対応も良かった。		
今後の課題と必要な取組み	・入園児の状況に対応した利用教室、保育教諭配置の工夫 ・継続した施設の安全点検と危機管理意識の向上の取組み ・職員不足の解消に向けた具体的な取組み		

推進目標④	○こども誰でも通園制度の準備 ○子育て支援事業の充実		
目標達成に向けた計画	・相談機能の充実 ・こども誰でも通園制度開始に向けた準備 ・町保健福祉や学校、発達支援センターとの連携		
評価の視点	・利用、相談しやすい子育て支援センター環境の充実 ・育児不安等に的確に対応できる職員体制の充実 ・子育て相談機能と保育・教育相互の緊密な連携		
内部評価	B	外部評価	B
内部評価の内容	・保健福祉部局との連携し、育児相談等、子育て支援センター機能の情報の提供を図るとともに、親子参加型事業を実施しているが、少子化の影響・母親の早期職場復帰等の影響で利用者は限定的となっている。 ・一時預かり事業を実施することで、保護者の子育てにおける心理的、肉体的負担の軽減が図られた。 ・こども誰でも通園制度開始に向け関係規程の整備、人事配置の体制準備を整備できた。		
外部評価の内容	・知り合い、頼る人がいない母親同士の交流の場として子育て支援センターがもっと活用される場になることを望む。母親の早期復帰の影響もあると思うが、利用増に向けて周知の方法も見直すといいのではないか。		
今後の課題と必要な取組み	・子育て家庭の育児不安解消を図る関係機関との連携・協力体制づくりの継続 ・こども家庭センターと連携した子育家庭のニーズの把握とその対応強化		

8 社会教育課所管の施策・事業評価調書

《基本目標》

意欲的な学びと、豊かな心を育む文化の町　新冠

【最重点目標】

○『町民憲章とＲｅの精神』を意識した社会教育の推進

○持続可能な社会を目指した生涯学習の推進

「ふるさとを愛し、生涯にわたり、学びあい、教えあう学習社会」

（1）レ・コード館を中心とした生涯学習社会の推進

推進目標①	○施設機能を活かした助け合いの醸成 ○音楽関連団体の推進と関連団体との連携 ○レ・コードと音楽による町づくりの熟成		
目標達成に向けた計画	・社会教育団体に対する補助金の交付（文化協会、レ・コード館自主企画委員会、レ・コード館ジュニアジャズバンド） ・音楽体験・交流事業（昭和音楽大学との連携） ・レコードコンサートの開催（例月、出張）等		
評価の視点	・支援を通じた各団体の活動の継続 ・団体の成果発表機会の提供・町民へのコンサート事業の提供 ・音楽体験・交流事業の充実 ・レ・コード館の機能を活かしたレコード文化の継承と活用		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・自主企画委員会によるコンサート事業は、町民をはじめ多くの方に多様な公演事業を提供することができた。 ・町民文化祭「芸能発表会」「総合作品展」を開催し、日頃のサークル活動の成果発表をする機会を提供できている。団体数・人数ともに減少傾向にあるが、各団体が活発に活動している。 ・文化協会の所属団体に生涯学習講座の講師を依頼し、人材活用とサークル活性化を図った。 ・生涯学習講座では大人向けの楽器体験を実施し、経験を問わず音楽文化に触れることができる機会を提供した。また、イルミネーションフェスタで成果発表を行ない、参加者が達成感を味わう工夫を行なった。 ・昭和音楽大学との連携事業として新冠中学校吹奏楽部へのクリニックを実施し、生徒の演奏意欲、技術向上につなげることができている。また、クリニックの対象を日高管内の吹奏楽指導者まで拡げ、管内の吹奏楽レベルの向上に取組んでいる。 ・アウトリーチコンサートは小中学校及び認定こども園の児童生徒にとって、プロの演奏技術を間近で鑑賞することで音楽に興味を持つきっかけとなり、ジュニアジャズバンドへの加入につながっている。また、メンバーが増えたことにより、講師（ブルーホース）との合同演奏だけではなく、子ども達だけでの単独演奏にチャレンジする機会も広がっている。 ・パートナーシップコンサートを開催し、町民が高いレベルの音楽文化に触れる機会を提供している。 ・レコードコンサートは毎月テーマを設定し、１２回実施した。 令和７年度からは、これまでの毎月第３水曜日の夜開催を、毎月第３土曜日の日中開催に変更し、遠方からの参加が増加した。 ６月と１２月に町内福祉施設で出張レコードコンサートを実施した ・レ・コード館内でレコードジャケットを継続して展示し、レコードを『魅せる』ことでレコード文化の継承と活用につながっている。		
外部評価の内容	・多くの事業を計画通り実行しており、町民からの反響も良く、全体として評価できる内容である。 ・レコードの入力作業は新しい方法を構築したということなので、今後は迅速な作業に期待したい。		
今後の課題と必要な取組み	・関係団体への支援の継続。連携した事業の実施。 ・新冠町の文化活動の中心施設としてレ・コード館の更なる有効活用 ・昭和音楽大学との交流事業の工夫、充実 ・魅力ある館運営とレコードコンサート、ジャケット展を中心としたレコード文化の普及		

(2) 生涯にわたってスポーツに親しむ社会体育の推進

推進目標①	○スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのある暮らしの充実 ○子どもの心身の健全な発達と体力向上のためのスポーツ機会の充実 ○スポーツに親しむ環境の充実 ○スポーツ観戦・応援の機運の醸成 ○スポーツでつくる優しい共生社会 ○スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり		
目標達成に向けた計画	・多様なスポーツ教室の開催と健康スポーツの提供 ・各種スポーツ団体への支援 ・児童・生徒を対象としたスポーツ教室の開催と学校との連携強化 ・中学校部活動地域移行の推進 ・適切なスポーツ施設の管理、学校開放事業の実施、青年の家体育館及び周辺環境の活用にむけた検討 ・広報活動やスポーツ観戦の機会提供 ・障害スポーツ体験をとおした理解促進 ・スポーツ活動の啓発と指導体制の支援		
評価の視点	・スポーツ推進委員の機能を活かした軽スポーツの推進 ・町長部局との連携による教室の開催と町民の体力維持向上や健康増進を図る機会の提供 ・社会体育団体に対する補助、スポーツ協会に対する運営面の支援、スポーツ大会出場に係る助成、指導者の資質向上のための機会の提供 ・トレーニングルーム内トレーニング機器更新に伴うスポーツ環境の充実 ・スポーツ少年団本部との連携によるスポーツ教室の開催 ・学校と連携した障害スポーツ体験機会の創出 ・スポーツ大会等に係る広報活動の充実		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・社会体育関係団体会員に対する支援 社会体育関係団体と連携したスポーツ振興事業や指導者研修会の提供等が図られた。 ・スポーツ推進委員と連携した軽スポーツ活動の推進 スポーツ推進委員企画大会として「にいかっぷモルック大会」を開催することができ、モルックを通して町民の相互親睦を図ることができた。 ・計画に基づいたスポーツ教室の開催 スポーツ団体及び町長部局と連携し、各世代においてスポーツに親しむ機会を創出することができたと共に、運動習慣形成や体力向上、健康増進に効果的な内容を実施することができた。 （計画：教室数14種目、参加定員395名　実績：教室数13種目　参加者651名） ・障がいスポーツの体験機会の創出 中学校と連携し、学校授業として、障がいスポーツ（車いすバスケットボール）を体験する機会を提供し、スポーツを通して共生社会の実現について考えるきっかけを創出することができた。 ・適切なスポーツ施設の管理 トレーニングルーム内に設置しているウエイトトレーニング機器の更新及び充実を図り、利用者の安全面及び利用しやすさが改善され、利用者も増加し続けている。		

外部評価の内容	・スポーツ推進委員が主体となって普及してきた軽スポーツ（モルック）の大会実施や学校授業とスポーツ教室の連携など多様な主体との連携が図れている。 ・トレーニングルームの設置機器の更新及び充実により、施設利用促進を図るなど、利用者のニーズを把握した工夫ができている。
今後の課題と必要な取組み	・社会体育団体活動の継続的な支援とスポーツ活動の充実 ・スポーツ推進委員による町民への主体的なスポーツ普及の取組み ・多様な主体との連携によるスポーツ教室等の充実及びスポーツ観戦機会の提供 ・新冠町部活動地域展開の推進

（3）郷土愛を育む郷土資料館事業の推進

推進目標①	○文化財の保護と活用 ○地域研究の推進 ○施設環境の整備		
目標達成に向けた計画	・学校や関連団体、社会教育事業との連携 ・『新冠百話』を活用した事業展開 ・ポロシリ生活館を利用したアイヌ関連事業の展開 ・ふるさと・再発見講座、特別展の開催 ・ふるさと歴史伝承活性化事業、資料館整備事業の継続		
評価の視点	・学校の要望にあわせた事業展開や指導対応 ・他団体との連携を深め、効果的に相互の活性化につなげる ・『新冠百話』の魅力や特性を活かした取組み ・ポロシリ生活館の特性と地域の人材を活かした新冠ならではのアイヌ学習 ・新しい視点を模索しながら多様な郷土文化の魅力を発信 ・資料整理や調査研究活動の継続		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	【学校や他団体との連携～ふるさと・再発見講座、特別展など】 ・学校教育の要望に耳を傾けながら資料館ならではの指導協力ができた。学校と連携した事業や学習対応は１０回を数え、例年よりも多く関わった。 ・特別展はネイチャーズクラブと連携して、資料館とレ・コード館双方で開催した。資料館開催では、日高振興局の環境啓発事業を活用して展示を見ながら自然科学を学ぶことができるクイズを行い、子どもが楽しみながら学ぶことができるよう工夫を図った。 ・関連団体と連携することにより、効果的な学習提供ができたとともに、多くの人達が関わりを持ちながら郷土文化に広がりを持たせることができた。 【新冠百話とポロシリ生活館でのアイヌ学習】 ・読み聞かせの会が作った新冠百話絵本、民族文化保存会が伝えるアイヌ古式舞踊など、地域の人材を活かした新冠町独自の学習提供ができた。 ・トンボ玉づくりは学校、ＰＴＡ、大人と体験できる幅を広げ、ポロシリ生活館での活動充実につながっている。 ・大昔とアイヌ民族にまつわる歴史学習会も開催し、体験の場だけで終わらない多様な学習提供を展開した。 【郷土文化の整備と伝承】 ・エコミュージアム関連史跡、資料館野外展示の環境整備を継続した。 ・令和７年度から新冠町内で発掘調査がはじまり、学校への学習提供のほか、様々な形で情報発信を行った。多方面から反響があったこともあり、大昔から現代につながる独自の年表を作成し展示した。 【資料整理と調査研究】 ・写真資料のデジタル化を継続し、郷土文化研究会と町内の石碑について現地確認した。新たな刊行物発刊を目標とするステップとなった。		
外部評価の内容	・ポロシリ生活館を活用したアイヌ文化活動をはじめ、調査研究活動も精力的に行っており、多様な取組みを実施している。 ・多くの町民が資料館に足を運ぶような取組みにも期待したい。		
今後の課題と必要な取組み	・利用者のニーズを意識した事業展開と施設づくり ・郷土（ふるさと）を大切にする心の広がりを意識した取組み ・郷土資料館の在り方を広い視野で模索する		

（4）豊かな感受性と社会性を育む図書プラザ事業の充実

推進目標①	○読書活動の推進 ○読書環境の整備		
目標達成に向けた計画	・関係図書館との連携によるレファレンスの充実、夜間の開設 ・読書週間、児童生徒の夏休み、冬休み期間の特別事業の実施 ・定期的なアニマル号の運行と図書プラザ利用困難者に対する支援		
評価の視点	・毎週水曜日の夜間開設のほか、利用者の要求に対応したサービスの提供（リクエスト、貸出予約、レファレンスのための他館からの資料調達） ・特別事業、企画展示等による来館者の拡充と利用促進 ・認定こども園、小・中学校及び社会福祉施設への移動図書館車の定期運行、高齢者や乳幼児を抱える個人宅の訪問		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・利用者ニーズの把握と利便性の向上 リクエスト対応処理：１３６件 他館連携（相互貸借）対応：１４件 ・移動図書館車アニマル号の運行 町内施設等定期運行先：６カ所、個人宅等訪問：３カ所 ・開館日数は３０１日。利用者数は前年に比べ４１１名減少した。 ・利用者は減少しているものの、本の愛好家や新聞、雑誌の閲覧に毎日通われる方や小さなお子さんとの遊び場、ボランティア活動、子ども支援施設の利用など広い範囲で利用されている。		
外部評価の内容	・魅力的な図書を多く購入している中、町民からのリクエストにもしっかりと応えている点は評価に値する。 ・今後は図書購入費削減の懸念があるが、町民からの寄贈や話題性がある選書等、町民が利用しやすい図書プラザ活動に期待したい。		
今後の課題と必要な取組み	・インターネットでの蔵書検索や予約など利用サービスの周知 ・乳幼児、子育て世代、小中高生、成人のあらゆる世代に対応した居場所づくり ・移動図書館車の利用拡大への取組み		

（5）豊かな人間性と自律を促す青少年教育事業の充実

推進目標①	○命の大切さを学ぶ体験活動の促進 ○子どもの安全・安心な環境づくりの推進 ○地域ぐるみで子どもを育む環境の整備 ○青年教育団体活動の支援		
目標達成に向けた計画	・ふるさと新冠の自然や資源を活用した体験活動の実施 ・学校・地域との連携による児童の安全安心な活動場所の確保と体験活動の提供 ・青少年健全育成事業の推進と関係団体に対する支援 ・新冠町青年団体協議会及び新冠町青年団体連絡会議に対する指導助言		
評価の視点	・地域団体との連携・工夫による事業の実施 ・放課後子ども教室における体験事業の充実と安全安心な施設運営 ・青少年健全育成を図るための関係団体との連携と支援 ・青年教育団体活動の充実を図るための支援		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・ふるさと新冠の自然や資源を活用した体験活動の実施 地域団体の協力を得ながら自然・産業体験や防災体験キャンプ事業を実施することができた。 ・学校・地域との連携による児童の安全安心な活動場所の確保と体験活動の提供 地域ボランティアの方と共に放課後児童の見守りを行うことができた。また、学校や関係団体と情報の共有を図りながら施設の運営を行うことができた。 体験活動については、町内の文化団体等の協力を得て事業を実施することができた。 ・青少年健全育成事業の推進と関係団体に対する支援 学校運営協議会や青少年健全育成委員会において、子ども達の日頃の状況や学校での取組み等、各関係団体の中で情報共有を図ることができた。また、団体が行う通学路の安全対策事業や子ども会育成連絡協議会が実施する各種事業に対する支援を実施することができた。 ・青年団体が主催する事業の支援 青年団体連絡会議事業として「ふるさと盆踊り」「ろうそく出せ」「イルミネーションフェスタ」を実施した。各事業において学生ボランティアを積極的に募集し、将来の青年活動を担う人材の発掘と育成のきっかけづくりに努めている。 町青年団体協議会事業として「ワインの夕べ」「青年交流事業」を実施し、交流事業により同世代の新規会員の獲得につながっている。 ・二十歳を祝う式典・成人の集いの実施 町青年団体協議会と式典参加者による実行委員会で成人の集いを企画運営し、思い出に残る事業にしている。		

外部評価の内容	・関係機関との連携が図れている。今後は更に学校、行政、地域、家庭との連携が必要である。 ・青年活動は充実している。今後も青年団体の後継者育成が重要である。
今後の課題と必要な取組み	・様々な体験活動の充実 ・学校、行政、地域、家庭との連携の充実 ・継続した安全安心な活動場所の確保 ・後継者育成も含めた団体活動の支援

（６）協働型参画社会を目指した成人教育の推進

推進目標①	○地域の教育力を高める講演、講座等の推進 ○仲間づくりと生きがいづくりを目指した高齢者教育の充実 ○男女平等等参画社会を目指した活動の推進		
目標達成に向けた計画	・多様な学習機会の提供 ・各団体の自主的活動と人材を含めた自立への支援 ・女性コミュニティ会議の活動支援 ・いきいき大学の学習内容の充実		
評価の視点	・プラスワンセミナー及び生涯学習講座の開催 ・各団体の自主活動や自立に向けた環境づくり ・町民の自主学習に対応した人材バンク派遣事業の実施 ・女性コミュニティ会議活動及びいきいき大学事業の充実		
内部評価	A	外部評価	A
内部評価の内容	・プラスワンセミナーは日高山脈襟裳十勝国立公園指定に伴い、田中陽希氏を講師として「山と、人。～日高山脈の魅力と、自然と共存する地域の未来～」と題して講演会を開催した。 ・生涯学習講座は「演劇入門」「楽器体験講座」を実施し、学習機会の提供に努めるとともに、町内の文化団体を講師とすることで人材活用とサークル活性化を図った。 ・外国人の人口が増加していることから、「日本語サポーター養成講座」を開催し、外国人にわかりやすい、やさしい日本語を使うことなど、多文化共生推進と地域で共に生活するうえで心がけることを学んだ。 ・人材バンク登録講師を派遣して自主学習の機会を提供するとともに、社会教育課事業でも講師を依頼し人材活用を図った。 ・女性コミュニティ会議事業を公式ＬＩＮＥにより情報提供し、参加しやすい体制づくりを行っている。また、関係団体との連携事業を開催するなど女性同士のつながりを作ることで女性のまちづくりへの参画を促進している。 ・いきいき大学事業では、全７回の講座を開催し、高齢者が生きがいや喜びを見出すことにつながるよう学習会を行なっている。このうち２回の学習会を保健福祉課と合同開催し、連携と事業内容の充実を図った。ＡＩオンデマンドバスの利用促進により、より参加しやすい環境を整えることができた。		
外部評価の内容	・生涯学習講座では、文化サークルに講師を依頼し、人材活用を図ったほか、講座終了後に新規加入した参加者もいたことから、サークルの活性化にも繋がっている。 ・女性コミュニティ会議では、町内関係団体（農協女性部、商工会女性部）と連携して事業を開催したことは、今後の活動が促進されるきっかけとなった。		
今後の課題と必要な取組み	・町民への様々な学習機会の提供のための講師選定及び内容の充実 ・町内講師の発掘や活用及び解りやすい事業周知 ・保健福祉課との連携した取組みの推進（健康増進、介護予防） ・ライフステージに合わせた効果的な事業の実施 ・地域の課題に即した内容、ニーズに合ったテーマの設定		

令和７年度
新冠町教育委員会
教育行政執行方針
重点施策概要版

教育基本理念

「生きる力を育み　ふるさと愛を深める　新冠の教育」

～明日も行きたい学校・働きたい学校・帰るのが楽しみな家庭・仲間と共に心はずむ地域～

『知･徳･体」の調和と、たくましく生きる力の育成　**基本目標**　意欲的な学びと、豊かな心を育む文化の町　新冠

最重点目標
- ○ 未来を見据え、持続可能な社会の形成者としての礎を築く
- ○ 子どもを中心としたウェルビーイングの向上
- ○ 新冠ならではの幼・小・中を貫く教育計画、教育実践、連続性の充実

1　子どもたちを中心としたウェルビーイングのさらなる充実と学校教育の活性化

（１）一人一人のウェルビーイングの向上と日々の積み上げによる学力向上
□主体的・対話的で深い学びへの授業改革、質の高い学び(資質・能力の明確化、個別最適な学び・協働的な学びの重視、見通しと振り返り、言語活動の充実、意図したICTの授業活用、指導と評価の一体化等)
□学力の向上(具体的な方策とマネジメント、定着を図る指導の徹底、学力向上委員会の取組)
□望ましい学習環境、生活習慣の確立(学年×10分の家庭学習の評価と対策、自主性を育むための授業と家庭学習の関連、ゲーム・スマホ時間の約束)
□小中を貫く学びの創造(小中連携推進会議を中心とした9年間の教育課程の検討と準備)
□小中の校内研修の充実、小中合同研修の実施
□生徒指導の三機能(自己決定、自己存在感、共感的な人間関係)が活かされた学級経営、教科経営
□授業改善に向けた、教師一人一人の改善目標の明確化(前期・後期、設定と評価・改善)

（２）豊かな心と健やかな体の育成
□道徳教育の充実(考え議論する道徳授業の計画的な実践と評価・改善、外部人材活用、校内外の研修確保)
□読書活動の推進(校内一斉朝読書の充実、学校図書館・図書プラザの活用、家庭内読書の奨励と時間確保)
□いじめ、不登校へのきめ細かな対応(早期発見・早期対応、組織的な対応強化、アセスメントシートの活用、ネットモラルの指導等)
□体力向上策の推進(体力運動能力調査分析と対策検討、課題を意識した一校一実践の取組、小中の連携)
□健康安全教育の充実(食育指導の工夫、危機管理体制、事故防止、熱中症対策、防災教育、感染症対策等の指導)

（３）特色ある教育活動の推進
□先を見据えた幼小中連携の推進(連携推進会議、小中を貫く学びの創造、グランドデザイン、基本計画作成、小中合同研修会の企画・実施・自校研修の充実と改善等)
□総合的な学習の時間(ふるさと教育を通じた探求学習の実践、小中を貫くふるさと教育新冠モデルの作成と実践)
□地域の教育力を活用した活動の推進(学校運営協議会（コミュニティ・スクール)、外部人材活用、社会教育事業の積極的な活用)
□中学校社会科の授業を中心とした主権者教育の充実(中学生による町長への町づくり提案と取り組みの充実)
□郷土資料館と連携したふるさと教育の推進(新冠百話の活用、新冠の自然、ポロシリ生活館を活用したアイヌ文化学習等)
□発達段階に応じたキャリア教育の推進(職場体験、地域の人材活用、地域関連団体等との連携)
□新聞等の情報を活用した教育活動の推進

（４）特別支援教育の充実
□インクルーシブ教育の充実と専門性の向上及び校内研修の時間確保
□通級教室、交流及び共同学習の充実
□個別の指導計画・教育支援計画(短期・長期)に基づく切れ目のない支援体制の確立
□特性に応じた適切な教育課程の編成・実施・評価・改善
□関係機関との情報共有によるきめ細かい教育相談と支援体制の充実
□就学・進学時の学校間引継ぎの円滑化と指導・支援体制の充実
□通級指導教室巡回指導教員、スクールカウンセラーの活用
□特別支援教育に携わる教員の計画的な校内人事配置

（５）信頼される学校づくりの推進
□校長を中心とした校内組織の強化(経営ビジョンの明確化と具体的な方針、役割分担、検証サイクルの確立、教職員の経営参画意識の醸成、個別面談・人事評価・学校設定目標と指導助言)
□初任段階教員及び中堅教員等の人材育成(指導主事の授業参観による指導助言、中堅教員と学校組織の積極的な活用)
□幼小中を貫く教育の推進(教育課程への位置づけと具体的実践、合同研修会の充実、教研協での小中の学び方、接続を意識した研修及び授業実践)
□教職員の資質向上と服務規律の保持(研修会参加、新冠町教育研究協議会、小中合同研修、服務規律研修の充実等)
□メンタルヘルスチェックの実施と個別面談

（６）教育環境の整備
□小・中学校の老朽化と新たな学校の創造(義務教育学校も含む検討)(町議会、小・中学校校長、教頭及び各PTA会長、学校運営協議会等での検討、協議)
□教師にとってのウェルビーイング(働きやすさと働きがいのある職場、働き方改革、校内組織コアチームによるボトムアップ型の改善策と実践、全職員による実践、一人一人の勤務時間の把握と個別面談、業務の適正化と改善に向けた指導助言、校務支援システムの活用　等)
□町費教職員の活用による教育体制(英語担当2名、授業改善・充実2名、支援員9名)の充実
□年間授業時数(1015時間)の確保と月1回の完全下校日の徹底
□静内農業高等学校への通学支援の推進(通学バス運行にかかる経費負担)
□義務教育施設の長寿命化計画基づく推進と次期構想への着手

（７）認定こども園の教育・保育の推進
□接続を意識した幼児教育の充実(スタートカリキュラムの実践、小学校、中学校との連携、要支援児童の把握と関係機関を含めた早期対応)
□保育教諭研修での学びと実践(計画的な研修派遣、園内外研修、関係機関との連携)
□適切な保育教諭の配置と教育保育環境の整備（入園希望者増加への対応、施設環境の整備、0、1、2歳児の育児担当制の継続と充実)
□こども誰でも通園制度の準備(令和8年度スタート)
□子育て支援事業の充実(相談体制の充実、町保健福祉や学校、発達支援センターとの連携)

最重点目標
- ○『町民憲章とＲｅの精神』を意識した社会教育の推進
- ○ 持続可能な社会を目指した生涯学習の推進

2　ふるさとを愛し、生涯にわたり、学びあい、教えあう学習社会

（１）レ・コード館を中心とした生涯学習社会の推進
□施設機能を活かした助け合いの醸成(ボランティア教育の推進、クーリングシェルターを活かした各種事業の実施)
□音楽関連団体の推進と関連団体との連携(楽器体験事業の充実、吹奏楽クリニック、中学校部活動地域移行に係わる支援及び協力)
□レ・コードと音楽による町づくりの熟成
(第９次新冠町社会教育中期計画の策定、町内巡回の出張レコードコンサート、アウトリーチコンサート、パートナーシップコンサート、自主企画委員会との連携)

（２）生涯にわたってスポーツに親しむ社会体育の推進
□スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのある暮らし
(多様なスポーツ教室の開催、健康スポーツの提供、スポーツ団体の支援)
□子どもの心身の健全な発達と体力向上のためのスポーツ機会の充実
(幼児・小中学生を対象としたスポーツ教室の開催、学校との連携強化、中学校部活動地域移行の推進)
□スポーツに親しむ環境の充実(適切なスポーツ施設管理、学校施設開放、青年の家体育館及び周辺環境の活用にむけた検討)
□スポーツ観戦・応援の機運の醸成(広報活動やスポーツ観戦の機会提供)
□スポーツでつくる優しい共生社会(障がい者スポーツ体験を通した理解促進)
□スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり(スポーツ活動の啓発と指導体制の支援)

（３）郷土愛を育む郷土資料館事業の推進
□文化財の保護と活用(郷土資料館展示内容の充実・魅力あるふるさと事業の推進、アイヌ文化の伝承・関係団体との連携強化)
□地域研究の推進(伝承を図るための調査研究活動・エコミュージアム事業のPRと環境整備・資料の収集と適正な保管)
□施設環境の整備(施設及び配備備品の整備・更新)

（４）豊かな感受性と社会性を育む図書プラザ事業の推進
□読書活動の推進(図書館資料の計画的購入、第4次子ども読書推進計画の策定、関係団体及び学校図書への支援と連携、移動図書館車の運行充実)
□読書環境の整備(計画に基づいた施設及び配備備品の整備・更新)

（５）豊かな人間性と自律を促す青少年教育事業の充実
□命の大切さを学ぶ体験活動の促進(自然体験や職業体験、防災体験キャンプの実施)
□子どもの安全・安心な環境づくりの推進(子どもの放課後支援事業・児童館運営事業の充実)
□地域ぐるみで子どもを育む環境の整備(学校運営協議会との連携、子ども会育成連絡協議会、青少年健全育成委員会の支援)
□青年教育団体活動の支援(新冠町青年団体連絡会議、新冠町青年団体協議会への指導助言)

（６）協働型参画社会を目指した成人教育の推進
□地域の教育力を高める講演、講座等の推進(生涯学習講座の実施)
□仲間づくりと生きがいづくりを目指した高齢者教育の充実(いきいき大学の実施、保健福祉との連携)
□男女平等等参画社会を目指した活動の推進(女性コミュニティ会議への支援)